

地震災害に備えて



沖縄でも大きな地震は起こります！

沖縄県では、本土に比べて地震が少ない地域のように感じられますが、沖縄周辺では、1年間に7千回前後の地震を観測しています。平成22年2月27日(土)には沖縄本島で99年ぶりに震度5弱の揺れを観測しました。地震による被害を最小限にできるかどうかは、普段の備えとともに、状況に応じてどれだけ冷静な行動をとれるかにかかっています。地震は突然襲ってきます。室内に何気なく置いた家具や家電製品が倒れ、凶器にかわることもあります。家庭内でのちょっとした対策が、あなたの家族の命を守ります。普段から家具や家電製品の固定、倒れた場合に備えた配置、また、建物の耐震化などについて考えましょう！



緊急地震速報って？

緊急地震速報は、地震による強い揺れを事前(揺れる前)にお知らせするための情報です。

- ・地震発生場所に近い地震計で地震波(P波:初期微動)をキャッチします。
- ・気象庁で、震源や規模、予想される揺れの強さ(震度)等を自動計算します。
- ・地震による強い揺れ(S波:主要動)が始まる前に素早くお知らせ(緊急地震速報を発表)します。
- ・家庭や工場、集客施設、交通機関などで、見聞きした一人一人が自らの身を守るために活用します。
- ・震源に近い地域では、緊急地震速報が間に合わないことがあります。

緊急地震速報「利用の心得」

ふだんから、家屋の耐震化や家具の固定など、地震に備えましょう！

まわりの人にも声かけながら

地震の揺れを感じたら…

緊急地震速報がなくても

あわてず、まず身の安全を!!

緊急地震速報を見聞きしたら…

地震の揺れを感じなくても

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れがくるまでの時間は数秒から数十秒しかありません

1 グラツときたら、まず身の安全の確保

タンスや食器棚のそばは危険です。座布団やクッションで頭をおおい、テーブルなどの下にもぐりましょう。



5 割れたガラスの破片に注意

地震ではガラス窓が割れて、その破片で大ケガをするケースも多いようです。家から避難する時は、ガラス破片に注意し、子供は抱いて歩くようにしましょう。



2 揺れがおさまったらすぐに火の始末

初期消火のチャンスは3回あります。①地震の揺れ始め、②揺れがおさまった時③出火直後です。ただし、①の時は無理をせず安全確保を優先しましょう。



6 がけ崩れや津波に注意

崖や川べりは地盤のゆるみで崩れやすくなっている場合があるので、これらの場所から遠ざかりましょう。弱い地震であっても揺れを感じたときは、ラジオなどで津波情報をよく確認し、急いで高台などの安全な場所へ避難しましょう。



3 出口の確保も大切

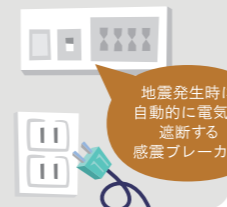
揺れの合間をみて、ドアや窓を開け放ちます。大きな地震で、ドアや窓が開かなくなることもあり、特にマンションや団地などの高層住宅では、出口を失ったら避難ができません。



7 通電火災をご存知ですか？

通電火災は、大きな地震などの災害時に、電力線の断線等により停電した後、電気が復旧する際に起こる火災です。通電火災の原因は、地震等により倒れた電気ストーブなどの器具に通電して火災が発生したり、破損したコンセントや切れた電気配線に通電し可燃物に引火するなど様々です。通電火災を防ぐためには、「避難するときはブレーカーをOFFにする」「地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する感震ブレーカーを設置する」などの取り組みが有効な対策です。

地震発生時に自動的に電気を遮断する感震ブレーカー



4 火災が起きたら素早く消火

万一出火したら、まず消火器やバケツなどの消火用具でボヤのうちに消止めましょう。大声で隣近所に声をかけ、みんなで協力しあって初期消火に努めましょう。



8 家庭の防災会議

大地震のとき、家族があわてず行動できるように、ふだんから避難場所、避難経路の確認、家族間の連絡方法やおち会う場所はどこにするかなどを話し合ひましょう。



人がおおぜいいる施設では

- 係員の指示にしたがう
- あわてて出口に走り出さない



家庭では

- 頭を保護し丈夫な机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- むりに火を消そうとしない



自動車運転中は

- あわててスピードをおとさない
- ハザードランプを点灯し周りの車に注意をうながす
- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす



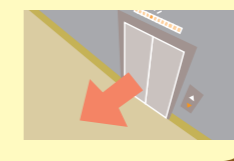
屋外(街)では

- ブロック塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意



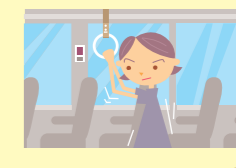
エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させずすぐにおりる



鉄道・バス乗車中は

- つり革、手すりにしっかりつかまる



誰にでもすぐできる家具転倒防止対策 ~家具転倒防止グッズで補強~

家具の固定

- 家具をしっかり留めて、ガラスの飛散防止対策を施せば、震災時に多くの人のはげがから身を守ることができます



転倒防止グッズ

- L型金具・ベルト式で家具を固定
- 家具の底面にストッパー式または粘着マット式器具を設置
- 新聞紙をたたんだもので、家具を傾斜させる
- 家具と天井の隙間を段ボール箱などでつめる

